
大学教育学会ニュースレター

No.78 2008.4.14

大学教育学会 (Liberal and General Education Society of Japan)

事務局: 北海道医療大学内 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

TEL: 0133-23-1487(直通)/FAX: 0133-23-1487

郵便振替口座: 00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: ungakkai@hoku-iryo-uac.jp

URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

「小さな大学での大きな大会」

大学教育学会第30回(2008年)大会

大会実行委員長 竹前 文夫(目白大学)

目白大学へようこそ。大会開催地である、新宿キャンパスの大学の正門をくぐると、亭亭たるヒマヤスギの巨木が数本、さらにヒノキやアカマツなどの濃い緑の樹木が皆様をお迎えしています。足もとには鮮やかな黄の美容柳の花々が咲き乱れていることでしょう。目白大学は武蔵野台地の東端にあり、この台地を北に遡れば、目白台としてJRの目白駅を越えて、椿山荘方面へと続いています。校舎は台地のぎりぎりの端にあります。したがって、西側にある大江戸線の落合南長崎駅からですと、平らな道路を歩くことにはなりますが、西部新宿線および大江戸線の中井からは、坂道を少し登ることになります。いずれも10分少々道のりです。

7000から8000人の学生を抱えないと経営的には苦しいと言われていますが、目白大学は岩槻と新宿の両キャンパスの在籍生がまだその数に到達せず、苦難の坂道を登りつつある大学です。18歳人口の減少期を乗り切るための努力をもっとも必要としている中規模大学であります。

今回「大学の「教育力」」を総合テーマにして、一つの節目になる第30回大会を開催しますが、本学会の存在理由がますます評価されてきていることの証左と言えるでしょうが、かつてない数の発表件数の申し込みがあり、小さな開催校としては嬉しい悲鳴をあげています。ラウンドテーブルは13件、自由研究は11室68件の発表が予定されています。

企画委員会からの提案により、基調講演は佐藤弘毅氏(目白大学学長・理事長)「学士課程教育の在り方の審議経過にみられる大学の「教育力」と二つのシンポジウム「大学の「教育力」とは何か」および「大学における「教育力」を考えるー教員と職員のコラボレーションの視点からー」を二日間の計画に組み込みました。基調講演では、中央教育審議会大学分科会に設置された小委員会「学士課程教育の在り方に関する小委員会」の審議の経過と目白大学での学内教育改革を例に挙げながら「育てて送り出す大学」の実現に向けての施策を中心にお話をいただけます。尚、目白大学の共催での大会となりましたので、会員外の目白大学の教職員にも、基調講演とシンポジウムの聴講は認められています。

基調講演やシンポジウムは正門入ってすぐ右の佐藤重遠記念館で行います。ラウンドテーブルや自由研究は、キャンパスを少し進んだ右手の10号館を使用します。懇親会は1号館地下の食堂です。狭いキャンパスですから、迷うことはございません。

さて、大学教育も専門教育に特化した学会での情報・知見だけではとてもすまない現状に随分前から立ち至っています。「学びからの逃走」とか「世界で一番やる気のない子」などと世に言われている子供たちが大学の門をくぐって進学してきています。「社会」どころか「世間」もなくなってしまうという日本の現状を直視して、大学教育も見直す時点に来ています。また学会も、30年の歴史を踏まえた上での総点検が必要な時期です。英国のナショナル・トラストがある時期に実施した組織の再点検の報告書が手元にありますが、大学の自己評価・他者評価は学会にも必要であり、30年という節目は、そのような企画にふさわしい時期ではないかと考えています。

テーブルⅡ 「FDのダイナミクス (その3)」

会場: 10号館 10301 教室

企画者: 田中 義郎 (桜美林大学)、山内 正平 (千葉大学)

発表者: 青野 透 (金沢大学)、井下 理 (慶応大学)、大塚 雄作 (京都大学)

企画概要: 課題研究「FDのダイナミクス—第一次調査のフォローアップと新たなモデル」は、前回の課題研究集会において、「工学的経営学のアプローチ」とその対抗モデルとしての「羅生門のアプローチ」を対置させ、「あるべきFDモデル」の構築に向けた原理を考察した。しかしこの4月からのFD義務化によって否応なく各大学はFDに取り組まなければならない。原理はともかく、実践が焦眉の課題になった。大学経営の面から合理化された行政主導型のFDが大手を振ろうとしているとき、だからこそ立ち戻って、FDの本来的な意味と機能を復権させる必要がある。

今回はFD義務化を踏まえつつ、学生支援の観点から、方法論の観点から、評価の観点から話題を提供し、あらためて困難ではあろうがFDの原理的、実践的な方向性を探ってみたい。

テーブルⅢ 「SDの新たな地平 — 「大学人」能力開発に向けて —(その2)」

会場: 10号館 10902 教室

企画者: 佐々木 一也(立教大学)、今田 晶子(立教大学)、本郷優紀子(桜美林大学)、秦 敬治(愛媛大学)

報告者: 清水 栄子 (安田女子大)、横田 利久 (中央大学)、逸見 勝亮 (北海道大学)、
奈良 雅之(目白大学)、司会者: 秦 敬治 (愛媛大学)

企画概要: 盛会だった昨年度のラウンドテーブルは、本学会員のこのテーマへの関心とその研究の進展への強い期待とを窺わせる。今回はそれを受け、さらにこのテーマへの切り込みを深めるべく、大学職員と大学教員の双方から見た「大学人」像を描いてみたいと思う。また、両者間のコミュニケーションの重要性が指摘されているが、実際には双方の「大学人」像のすりあわせが行われていない現実がある。そこでまず、私立大学の職員お二人から、教員との協働を通じて感じている「大学人」というものについてお話いただくことにした。その上で、「大学人」を念頭に置いた時に、教員の立場から職員に期待するものについて、忌憚なくお話いただく。さらに教員職員両方の経験を持つ司会者が加わりコミュニケーションを深める。ざつぱらんな意見交換、情報交換の場であるラウンドテーブルの特質を生かし、参会者の縦横無尽の議論参加を期待したい。そうして両者のコラボレーションの方向性が垣間見えてくることを期待している。

テーブルⅣ 「大学・大学院の学術コミュニティへの新規参入者に対する日本語表現能力育成の可能性 — 専門日本語教育分野の蓄積からの支援策を考える —」

会場: 10号館 10903 教室

企画者: 大島 弥生 (東京海洋大学)

発表者: 二通 信子 (東京大学 留学生センター)、因 京子 (日本赤十字九州国際看護大学 看護学部)、山本 富美子 (立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部)、
佐藤 勢紀子 (東北大学 高等教育開発推進センター)

企画概要: 大学・大学院生にとって論理的な文章を書く力は必須であるが、従来、その育成は初年次の日本語表現関連科目、各科目のレポート、ゼミ、卒論指導などを通して間接的に行われ、学習者の自主努力が期待されていた。しかし、入学者の多様化にともない、教員や先輩の文章を参考にして書くよう指導するといった非明示的な方法では対応しきれなくなった。更に、インターネット普及に伴い、剽窃を避け適切に文献を引用することの指導も必須となっている。一方、留学生を主対象とした専門日本語教育 (JSP) の分野では、書き手を学術コミュニティへの新規参入者と捉え、当該分野の文章の構成要素の分析に基づいてその特徴に気づかせ、文章産出のプロセスにのっとなって訓練する手法が研究されている。本発表では、一般の日本人大学生などの大学・大学院での「書く力」の育成にこれらの手法を利用する方策や教材開発の可能性を検討したい。

テーブルV 「授業方法としてのワークショップと e-Learning の意義」

会場: 10号館 10302 教室

企画者: 筒井 洋一 (京都精華大学・人文学部)

発表者: 向後 千春 (早稲田大学・人間科学部)、青木 将幸 (青木将幸ファシリテータ事務所・代表)
中村 恵子 (キャリアカウンセラー・IT コーディネータ)、
筒井 洋一 (京都精華大学・人文学部)

企画概要: 教授目標を達成するための教授方法として、従来は、学習者に知識や既存の価値を一方向的に吸収させる講義方法が中心であった。

しかし、情報社会が到来する中で、知識が教育者に独占される時代が終わり、学習者相互の中で新しい価値を創り出したり、学習者がより能動的で創造的な学びを実現する教授方法が求められている。本テーブルでは、その例として、ワークショップと e-Learning を取り上げる。これまでは、それぞれがまったく別個に発展していた。本テーブルでは、両者の特性をふまえながら、どのように教育活動に生かすのかについて、語っていききたい。

テーブルVI 「大学全入時代の FD-FD を楽しむー」

会場: 10号館 10303 教室

企画者: 清水 亮 (三重中京大学 現代法経学部)、橋本 勝 (岡山大学 教育開発センター)

発表者: 圓月 勝博 (同志社大学 文学部)、木野 茂 (立命館大学 大学教育開発・支援センター)、
橋本 勝 (岡山大学 教育開発センター)、松本 美奈 (読売新聞社 生活情報部)

企画概要: 大学院に続き大学で FD が義務化され、認証評価で教育の質が社会から問われる中、いかに FD を推進できるかが、大学のグローバル化の波に対応しようとする大学にとっても、ユニバーサル化の波に揺れる大学にとっても、大学の将来を左右することになる。

その一方で、FD の専門化、高尚化あるいは形式化、アリバイ化も進み、いわゆる「深海魚」のみならず、一旦は教育に関心を向かわせ始めた教員のいくらかは、FD から再び距離を置くようになってきているという指摘もある。

この企画は、大学での FD をより有効に推進するために、大学における FD の今を考え、FD の授業での活用法・実践例をヒントとして提示し、自分の大学の FD の将来について思いを馳せることにより、現場の大学教員一人一人が FD に真剣に向き合い、着実な一歩を踏み出すための応援歌となることを目指すものである。

テーブルVII 「大学体育の教育力」

会場: 10号館 10304 教室

企画者: 小林 勝法 (文教大学国際学部)

発表者: 小林 勝法 (文教大学)、森田 啓 (千葉工業大学)、東海林 祐子 (慶応義塾大学)、
木内 敦詞 (大阪工業大学)

企画概要: 近年、国内外において大学生の「学習成果」(ラーニング・アウトカム)に大きな関心が持たれている。例えば、国内では各省庁から学士力(中教審)、社会人基礎力(経済産業省)、就職基礎能力(厚生労働省)などが提示されている。そして、社会人基礎力には「ストレスコントロール力」も含まれているものの、他のものには健康や体力に関する項目がない。健康を維持増進していく態度や知識は学士が備える学習成果のひとつではないか。また、主体性や実行力、コミュニケーション能力なども体育の授業でも育成できる。学習成果の観点から大学体育を再評価し、その課題を探りたい。

テーブルVIII 「FDネットワークの可能性をさぐる」

会場: 10号館 10408 教室

企画者: 夏目 達也 (名古屋大学)

発表者: 小田 隆治 (山形大学)、佐藤 浩章 (愛媛大学)、松下 佳代 (京都大学)、
栗原 裕 (愛知大学)

企画概要： 大学設置基準や大学院設置基準の改定により、大学院・学士課程ともFDの実施が義務化され、各大学とも対応が迫られている。その中で、各地でFDネットワーク（コンソーシアム）を組織する動きが活発化している。このような組織は、限られた資源を共有化し有効活用する一つの手段としてみなされているが、実際にどのようなことが期待されているのか、期待されるような役割を担うことは可能なのか、実際に役割を担うためにはどのような条件の整備が必要なのか等々、検討すべき課題は多い。本ラウンドテーブルでは、各地のFDネットワークの活動内容や事業計画を紹介するとともに、上記の課題について検討する。

テーブルⅩ 「学会によるリベラルアーツ教育の達成度評価の可能性について」

会場：10号館 10409教室

企画者：坂井 昭宏（桜美林大学）、館 昭（桜美林大学）、後藤 邦夫（学術研究ネット）

企画概要： 最近、大学の学士課程教育の質的保証に関する議論が盛んである。「PISAの大学版」の実施や「大学版学習指導要領」策定を思わせる話題も散見される。大学教育学会は、「教養教育の内容評価の基礎」に関する課題研究に取り組んできたが、さらに「学会が主体となる内容評価の具体化」に向けた検討が必要である。テーマは、「リベラルアーツ教育のコアとなる諸分野の標準化」「ラーニング・アウトカム評価をめぐる諸事例の検討」「学会がピア・レビューとしておこなう達成度評価の内容」「学会による評価活動の組織と実践に関する諸問題」などであるが、今回は、「実施」を念頭に置いた論点の整理を重視したい。

テーブルⅪ 「大学教育における社会福祉専門職養成教育の課題」

会場：10号館 10506教室

企画者：志水 幸（北海道医療大学・看護福祉学部）

発表者：川延 宗之（大妻女子大学・人間関係学部）、杉山 克己（青森県立保健大学・保健科学部）、
宮嶋 淳（中部学院大学・子ども学科）、坪井 真（長野大学・社会福祉学部）

企画概要： 現在、社会福祉系大学では、昨年11月に改正された「社会福祉士及び介護福祉士」及び「社会福祉士・介護福祉士養成課程における教育内容の見直し（案）」を踏まえ、社会の要請に応える高い実践力を有する福祉マンパワー養成を図るべくカリキュラム改正の議論が行われている。カリキュラム改正にあたっては、今般の見直しへの対応と平行して、高等教育の一翼を担う社会福祉系大学のあり方に係る検討が必要である。そこで、このラウンドテーブルでは、“いわゆる大学教育”と“大学における社会福祉専門職養成教育”との狭間に生じる諸課題の検討を通して、今後のカリキュラム改正の主な論点を抽出したい。

テーブルⅫⅠ 「初年次教育の「今」を考える ～2001年調査と2007年調査の比較を手がかりに～」

会場：10号館 10508教室

企画者：山田 礼子（同志社大学・社会学部）、川島 啓二（国立教育政策研究所・高等教育研究部）

発表者：山田 礼子（同志社大学・社会学部）、川島 啓二（国立教育政策研究所・高等教育研究部）、
杉谷 祐美子（青山学院大学・文学部）、笹金 光徳（高千穂大学・経営学部）

企画概要： 初年次教育の現場にみるここ数年の変化は著しく、プログラムの体系化や学内での理解の獲得など、担当者が抱える新たな課題についても共有化や解決策の探究が求められるようになってきている。本ラウンドテーブルにおいては、2001年に全私立大学学部長を対象に実施した初年次教育の実態調査（私学高等教育研究所）と2007年に全国公私立大学学部（長）を対象に行った同様の実態調査（国立教育政策研究所）との結果比較を素材としつつ、これまでの日本の初年次教育の歩みを総括することを通して、現状と今後の展望について、フロアとの対話によってクリアに析出することをめざしたい。

テーブルⅫⅡ 「教育改善に向けたICTの利用」

会場：10号館 10509教室

企画者：加藤 由香里（東京農工大学 大学教育センター）

発表者: 江木 啓訓 (東京農工大学 総合情報メディアセンター)、江本 理恵 (岩手大学・大学教育総合センター)、尾澤 重知 (大分大学・高等教育開発センター)、田口 真奈 (京都大学・高等教育研究開発推進センター)、中島 平 (東北大学大学院 教育情報学研究所)、細川 敏幸 (北海道大学 高等教育機能開発センター)

企画概要: 現在、高等教育機関では「教育の質の向上」を目指して、様々なFD活動が展開されている。中でも、大学の教育方法を改善する手段としてICT (Information Communication Technology) が注目され、eラーニングなどの利用を含めたセミナーも積極的に開催されている。しかし、大学の教育改善においてICTを使って何を実現できるか、また、それを支援するFD活動のありかたについては十分な議論が行われていない。そこで、教育工学をベースとして研究する若手を中心に、FD担当者の立場、各学科の教育改善リーダーの立場、情報処理センターの立場から、ICT利用の実践例および問題点について報告する。

テーブルXIII 「一般教育の歴史的総括を試みる(その4)」

会場: 10号館 10406教室

企画者: 志津木 敬 (FDアドバイザー)、林 俊夫 (四国学院大学)、上垣 豊 (龍谷大学)、武石 宣子 (和泉短期大学)

発表者: 坂入 明 (東京家政大学)、深野 政之 (東京女子大学、桜美林大学大学院) 他

企画概要: 2007年9月に出た中央教育審議会「学士課程教育の再構築に向けて」(審議経過報告)の冒頭には戦後の一般教育についての言及がありますが、これは一般教育史が現代の大学改革・大学教育改革における基礎作業でもあることを示唆している点では注目に値するものです。

そこで、一般教育の歴史的総括を試みる(その4)では、「Liberal and General Educationと『大学の教育力』」というサブテーマの下に、フロアの先生方と一緒に一般教育の歴史の総括を行いたいと思います。奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

昼食 12:00~12:50 (シンポジウムI 打ち合わせ)

総会 13:00~13:50

議長: 寺崎昌男学会長

会場: 佐藤重遠記念館

基調講演 14:00~15:20

会場: 佐藤重遠記念館

挨拶: 佐藤 弘毅 目白大学学長

司会: 竹前 文夫 目白大学・大会実行委員長

演題: 「学士課程教育の在り方の審議経過にみられる大学の「教育力」(仮題)」

講師: 佐藤 弘毅 目白大学学長

シンポジウムI: 15:30~18:00 「大学の「教育力」とは何か」

会場: 佐藤重遠記念館

企画概要: 2007年度の文部科学省のデータによれば、大学・短期大学への進学率は54%となっている。このような高等教育のユニバーサル化の流れの中で、多様な学生に対応するために大学の個性化・特色化が進行してきている。また、一方では我が国の大学が、世界の大学と伍していくためには、大学での学びの内容を保障し、学位の国際的な通用性を確保する必要性も指摘されている。

このように多様な課題を抱える大学であるが、目先の問題に流されることなく、「大学とは何か」、「大学の社会的使命は・・・」、「どのような教育(教育力)が必要なのか」といった問題意識を忘れてはならないであろう。2007年9月に「中央教育審議会大学分科会学士課程教育の在り方に関する小委員会」から公表された「学士課程教育の再構築に向けて(審議経過報告)」では、大学は「何を

教えるか」ではなく「何が理解できるようになるか」という「学びの成果」を明確に具体化する必要があることが強調されている。

このような流れを受け、今回のシンポジウムでは大学の「教育力」の内容をどのように考えるかを確認し、その教育力が具体的にどのような形で展開され、どのような「学びの成果」に結びついているかを検討する。「学びの成果」については、各学問領域で様々な目標が立てられると思うが、専門課程の教育ではなく、教養教育という観点から学生の学びの充実に取り組まれている事例を中心に考えてゆきたい。

シンポジスト: 金子 元久 (東京大学大学院)、新村 洋史 (中京女子大学)、徳永 哲也 (長野大学)
司 会: 松岡 信之 (国際基督教大学)、青野 透 (金沢大学)

懇親会 18:10~20:00

会 場: 1号館食堂

第2日 6月8日(日)

受 付: 8:30~

自由研究発表: 9:00~12:00 (180分)

自由研究Ⅰ eラーニング・情報教育・支援教育

司 会: 目 修三 (八戸工業大学)、小山 悦司 (倉敷芸術科学大学)

会 場: 10号館 10300 教室

9:00~9:20 大学生の Learning Disabilities と認知諸機能について

浅野 紀和 (大阪体育大学健康福祉学部)

9:20~9:40 特別支援教育教員の専門性向上にむけた大学教育プログラムの開発

鳥居 朋子・片岡 美華 (鹿児島大学・教育学部)

9:40~10:00 大学教育における IT 活用状況の諸問題

林 一夫 (メディア教育開発センター研究開発部)

10:00~10:15 (総合討論)

10:15~10:30 (休憩)

10:30~10:50 教員向け ICT スキルアップセミナーの実施と課題

加藤 由香里 (東京農工大学・大学教育センター)

10:50~11:10 情報教育における成績別に見た授業の満足度と関連する要因の分析

北澤 武・永井 正洋・上野 淳 (首都大学東京・基礎教育センター)

11:10~11:30 ノート PC 必携による情報教育の成果と課題

宮腰 直幸・目 修三 (八戸工業大学・工学部建築工学科)

11:30~11:45 (総合討論)

自由研究Ⅱ 初年次教育

司 会: 濱名 篤 (関西国際大学)、杉谷 祐美子 (青山学院大学)

会 場: 10号館 10301 教室

9:00~9:20 動機づけを重視して双方向型 Web サイトを活用した授業方法の改善

西村 秀雄 (金沢工業大学・基礎教育部)

9:20~9:40 「書くのが苦手」な大学初年次生がもつ苦手意識は過剰であるか

渡辺 哲司 (九州大学・高等教育開発推進センター)

島田 康行 (筑波大学・アドミッションセンター)

9:40～10:00 教員養成プログラム、特別支援教育、専門人材育成、教師像

森 朋子 (島根大学 教育開発センター)

高橋 朋子 (慶應義塾大学 外国語教育センター)

中谷 潤子 (大阪大学 言語文化研究科)

竹内 理 (関西大学 (慶応大学AOP 客員上席研究員))

境 一三 (慶應義塾大学 外国語教育研究センター)

岩居 弘樹 (大阪大学 (慶応大学AOP 客員上席研究員))

倉館 健一 (慶應義塾大学 外国語教育研究センター)

10:00～10:15 (総合討論)

10:15～10:30 (休憩)

10:30～10:50 初年次教育と専門教育との接続ー「専門導入教育」の定義づけをめぐる2ー

筒井 洋一 (京都精華大学・人文学部)

10:50～11:10 問題解決能力の育成をめざす初年次導入教育ープロジェクトゼミの企画から実施
までー

近藤 潔 (富山大学・芸術文化学部)

11:10～11:30 桜美林大学基盤教育院における“学びのコミュニティ作り”ー「大学での学びと経験」
と「ブリッジスクール」ー

井下 千以子・松久保 暁子 (桜美林大学基盤教育院)

11:30～11:45 (総合討論)

自由研究Ⅲ FD・SD活動

司会: 田中 每実 (京都大学)、出光 直樹 (横浜市立大学)

会場: 10号館 10302教室

9:00～9:20 教務部門が求める職員像ー教務部門事務責任者への全国調査結果ー

上西 浩司 (豊橋技術科学大学入試課)

中井 俊樹・齋藤 芳子 (名古屋大学高等教育研究センター)

9:20～9:40 大学職員の「職員先生」体感プログラム

高橋 真義 (桜美林大学)

9:40～10:00 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの策定
と一貫性構築

佐藤 浩章 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

10:00～10:15 (総合討論)

10:15～10:30 (休憩)

10:30～10:50 英国におけるドラマ教育の伝統と授業改善への適用の可能性

ーストラスカライド大学における初任者教員を対象とした研修を事例としてー

鈴木 尚子 (徳島大学・大学開放実践センター)

10:50～11:10 米国型ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップの実施と日本型構築
に向けての試み

栗田 佳代子 (大学評価・学位授与機構・評価研究部)

11:10～11:30 大学の教育力を向上させる大学等間連携FD

ー「FD ネットワーク“つばさ”」の結成を事例としてー

杉原 真晃 (山形大学高等教育研究企画センター)

11:30～11:45 (総合討論)

自由研究Ⅳ 授業評価・成績評価

司会：山内 正平（千葉大学）、永井 正洋（首都大学東京）

会場：10号館 10303教室

9:00～9:20 授業アンケートに見るコミュニケーションの効果

木野 茂（立命館大学 大学教育開発・支援センター）

9:20～9:40 学生による授業評価と授業改善—学生評価の再分析から—

田実 潔（北星学園大学）

9:40～10:00 大学生の学習成果と満足度に及ぼす要因の分析：

学生と教員の授業評価のズレに着目して

舛本 直文・串本 剛（首都大学東京）

10:00～10:20 興味深い授業と楽しい授業の授業満足度は異なるのか

南 学（三重大学 教育学部／高等教育創造開発センター）

10:20～10:35 （総合討論）

10:35～10:40 （休憩）

10:40～11:00 成績評価の難易度と形成的評価が受講生の学習に与える影響2

西垣 順子（大阪市立大学大学教育研究センター）、矢部 正之（信州大学全学教育機構）

11:00～11:20 履修パスウェイとアウトプット指標で測る教育の成果

松塚 ゆかり（一橋大学 大学教育研究開発センター）

11:20～11:40 優秀教員（Teaching Award 受賞者）の共通点について

久保 延恵・安岡 高志（東海大学理学部）

11:40～11:55 （総合討論）

自由研究Ⅴ キャリア教育

司会：山田 礼子（同志社大学）、林 祐司（首都大学東京）

会場：10号館 10304教室

9:00～9:20 イギリス高等教育機関のキャリア支援部局におけるミッション文書

沖 清豪（早稲田大学文学学術院）

9:20～9:40 大学の「キャリア教育」と「キャリアセンター」の連携に関する実証的考察

—大学教育における学びの成果の向上に向けて—

萬年山 啓（LEC東京リーガルマインド大学）

9:40～10:00 『学び直し再チャレンジ』にみる大学の新たな役割

佐藤 龍子（静岡大学・大学教育センター）

10:00～10:15 （総合討論）

10:15～10:30 （休憩）

10:30～10:50 大学改革の効果を検証する卒論の機能—理念的な視点で—

黒河内 利臣（武蔵野大学）

10:50～11:10 感性デザイン学科におけるビジネスコミュニケーション教育

川守田 礼子（八戸工業大学感性デザイン学部）

11:10～11:30 高等教育進学大衆化時代における大学進学意識

望月 由起（横浜国立大学・大学教育総合センター入学者選抜部）

11:30～11:45 （総合討論）

自由研究 VI 教育実践A

司会：林 義樹（日本教育大学院大学）、大島 弥生（東京海洋大学）

会場：10号館 10902 教室

9:00～9:20 大学生の学習成果（ラーニング・アウトカム）（1）

－その構造と正課・正課外の差異－

山田 剛史・森 朋子（島根大学・教育開発センター）

9:20～9:40 学生の質問を促すプレゼンテーション方法の開発

桐山 聡（鳥取大学・大学教育総合センター）

9:40～10:00 自己表現・評価トレーニングにおける新たな役割

鳥居 聖（桜美林学園経理部）

10:00～10:20 論理的な思考力の修得を目指した導入教育の授業評価・自由記述の分析

村上 正行・梶川 祐司（京都外国語大学）

10:20～10:35 （総合討論）

10:35～10:40 （休憩）

10:40～11:00 Concept Learning と Planning を重視した英語指導

浅野 幸子（大阪体育大学）

11:00～11:20 複数授業による授業展開に関する研究－相互支援による授業の活性化－

根津 美智子（山梨学院短期大学）

11:20～11:40 小論文執筆および口頭プレゼンテーション能力向上のためのカリキュラム開発

佐々木 嘉則（お茶の水女子大学）・高橋 薫（武蔵野大学）

11:40～11:55 （総合討論）

自由研究 VII 教育実践B

司会：橋本 勝（岡山大学）、近田 政博（名古屋大学）

会場：10号館 10903 教室

9:00～9:20 講義型教養科目における学生のリフレクション・プロセスの検討

矢野 裕俊（大阪市立大学・大学教育研究センター）

廣瀬 真琴（藍野大学・看護リハビリテーション学部）

9:20～9:40 橋本メソッドの活用法：導入基礎科目における授業改善実践

清水 亮（三重中京大学 現代法経学部）

9:40～10:00 評価を意識したグループディスカッションの試み

－学びを実践に生かす取り組みとして－

茂住 和世（東京情報大学）

10:00～10:15 （総合討論）

10:15～10:30 （休憩）

10:30～10:50 自己理解活動を取り入れた授業実践が学生の自己理解に及ぼす影響（1）

－教養科目における体験型授業への取り組みを通して－

崎濱 秀行（名古屋学芸大学短期大学部）

10:50～11:10 大学一般教育講義科目における「対話型授業課題」導入の試み

奈良 雅之（目白大学人間学部）

11:10～11:30 学生をオフィスアワーへ誘導する試みとその効果

大和田 秀一（酪農学園大学獣医学部化学研究室）

11:30～11:45 （総合討論）

自由研究 Ⅷ カリキュラム・教育改革A

司会：小林 勝法（文教大学）、吉永 契一郎（東京農工大学）

会場：10号館 10508 教室

9:00～9:20 初等教育としての体育

東海林 祐子（慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス・総合政策学部）

9:20～9:40 単位の実質化と自習時間―授業アンケートの分析から―

山岸 みどり（北海道大学・高等教育機能開発総合センター）

9:40～10:00 大学の教育力の向上策 ―学外諸機関との連携を中心として―

大庭 茂美（九州女子短期大学）

10:00～10:15 （総合討論）

10:15～10:30 （休憩）

10:30～10:50 研究大学における学士課程教育の新動向

―1990年代のボイヤー委員会の報告の分析を中心として―

中島（渡利）夏子（東北大学大学院、教育学研究科）

10:50～11:00 イギリスにおける大学教育改革の現状と課題 ―現地調査の結果から―

樋口 健・鈴木 尚子（ベネッセコーポレーション・ベネッセ教育研究開発センター）

谷村 英洋（東京大学大学院・教育学研究科）

11:10～11:30 授業時間外学習が学習成果に結びつく条件～単位の実質化論②

串本 剛（首都大学東京・基礎教育センター）

11:30～11:45 （総合討論）

自由研究 Ⅸ カリキュラム・教育改革B

司会：田中 義郎（桜美林大学）、松下 佳代（京都大学）

会場：10号館 10509 教室

9:00～9:20 大学におけるライティングセンターの機能

伊藤 奈賀子（岐阜女子大学文化創造学部）

9:20～9:40 2006年度新教育課程の成果

細川 敏幸・西森 敏之・安藤 厚（北海道大学高等教育機能開発総合センター）

9:40～10:00 日本私立看護系大学協会加盟の図書館トップページの現状

宮内 美智子（東京医療保健大学）

10:00～10:15 （総合討論）

10:15～10:30 （休憩）

10:30～10:50 高大連携教育における大学教員の役割

―高校教員とのコラボレーションによる高校授業―

中村 博幸（京都文教大学）

10:50～11:10 保育の非カリキュラム活動における「二重の自由度」と「三機能」

駒井 美智子（東京福祉大学）

11:10～11:30 薬学部における第三者評価基準案を視野に入れたカリキュラム作成の事例

坂崎 貴彦（名古屋大学大学院医学系研究科博士課程）

11:30～11:45 （総合討論）

自由研究 X 教養教育・歴史・教育行政

司会：坂井 昭宏（桜美林大学）、青野 透（金沢大学）

会場：10号館 10408 教室

9:00～9:20 江戸時代の教養のレベルと漢文の意味

加藤 恒雄（中京女子大学健康科学部）

9:20～9:40 ケーススタディからみた大綱化前後の大学設置認可行政

三和 義武 (名古屋大学大学院)

9:40～10:00 アメリカ高等教育におけるサービス・ラーニングの誕生と発展の過程に関する研究

ライトウ山崎 晴世 (高崎商科大学流通情報学部)

10:00～10:15 (総合討論)

10:15～10:30 (休憩)

10:30～10:50 大学設置基準の大綱化と大学の環境教育の拡大過程—環境関連授業科目を中心に—

内山 弘美 (東京大学大学院工学系研究科・協力研究員)

10:50～11:10 「私学経営」と「教育の改善」の問題について

加澤 恒雄 (広島工業大学)、冠地 和生 (東京女子医科大学)

11:10～11:30 戦後改革期における大学のアクレディテーションに対する理解

日永 龍彦 (山梨大学・大学教育研究開発センター)

11:30～11:45 (総合討論)

自由研究 XI 理系基礎教養教育・科学教育

司会: 秀島 武敏 (桜美林大学)、小笠原 正明 (筑波大学)

会場: 10号館 10409教室

9:00～9:20 ミニたたら製鉄実習を通じた工学部での副専門教育

若菜 博 (室蘭工業大学)

9:20～9:40 岩手医科大学における新たな教養教育

高橋 敬 (岩手医科大学・共通教育センター)

9:40～10:00 「人体を観る・診る・描く」: 科学的教養を培うために

松政 正俊・高橋 敬・佐藤 洋一 (岩手医科大学・共通教育センター)

10:00～10:15 (総合討論)

10:15～10:30 (休憩)

10:30～10:50 大学基礎物理の授業に対する履修動機と授業評価の相関分析

西田 昌彦 (金沢工業大学・基礎教育部・数理工教育センター)

10:50～11:10 医療系学部の学生に「物理学」の何を教えるか

房岡 秀郎 (愛知医科大学・医学部)

11:10～11:30 文系学生に対する科学実験教育の試み・その2

～八戸工業大学感性デザイン学部におけるサイエンス基礎実験の取り組み～

安部 信行・目 修三・坂本 禎智・磯島 康雄・宮崎 菜穂子 (八戸工業大学)

11:30～11:45 (総合討論)

昼食 12:00～12:50 (シンポジウムII 打ち合わせ)

シンポジウムII 13:00～16:00 「大学における「教育力」を考える—教員と職員のコラボレーションの視点から—」

会場: 佐藤重遠記念館

企画概要: 進学率の向上と学生たちの変化を受けて、大学における教育の形態や内容は多様性を増している。さらに、大学に対する社会からの期待や要請も多様化し、また、その変化の速度も増している。そして、大学はそれらに対する機敏な対応も求められている。このような状況において、大学教育をその本来の目的を達成するためにより効果的に推進するに当たり、研究者としての大学教員にとってその見識だけでは十分に対処しにくい状況が生まれている。そこで、新しい授業形態の構想・企画、その実現のための学外機関との交渉、学生生活への支援、履修指導などの面では、職員が深く関わり、教員とは異なった側面からの様々なアプローチがなされるようになってきている。このように職員が教員と協働

して現代の学生たちを対象にした大学における「教育力」を涵養することは、これからの日本の大学にとって必然的であるように思われる。

今回のシンポジウムでは、職員の立場で既にこのような協働的営為を実践している私立大学関係者から、その経験に基づき、それぞれの大学での「教育力」の受け止められ方や、教員たちとの協働形態の実際、さらには、協働遂行に際して克服すべき課題などの点について率直な報告をいただくことにした。そして教員側の指定討論者によるコメントをいただいた上で、教員と職員のコラボレーションという視点から大学における「教育力」を改めて問い直し、その具体的な育成法などについて議論を深めたい。

シンポジスト：浅野 昭人(立命館大学)、今田 晶子(立教大学)、長野 佳恵(目白大学)、
本郷 優紀子(桜美林大学)

指定討論者：安岡 高志(立命館大学)

司会者：佐々木 一也(立教大学)

会長閉会挨拶・次期会場校挨拶 16:00~16:30

会場：目白大学新宿キャンパスまでの交通案内



JR高田馬場より西武新宿線各駅停車で2駅目、「中井」駅より徒歩8分

地下鉄東西線「落合駅」からも徒歩来場可、タクシーご利用の場合は高田馬場駅からが便利です

<大会参加要領>

1. **大会参加申込及び参加費払込** 大会に参加される方は、①～③のいずれかの方法で参加登録をお願いいたします。申込締切は要旨集大会参加者名簿に記載する関係で**4月29日(火)**とします。また、参加費は参加者一名につき振替用紙一枚でご入金ください。領収書は、大会当日に受付でお渡しします。
- ① E-mail: 参加申込用紙の各項目を、30kaitaikai@mejiro.ac.jp にご送付ください。
- ② 郵便: 同封の参加申込用紙を、〒161-8539 新宿区中落合 4-31-1 目白大学スポーツ科学研究室内 大学教育学会第30回大会事務局 にご送付ください。
- ③ FAX: 同封の参加申込用紙を、**03-5996-3125** (外国語学部研究事務局) にご送付ください。

参加費等

*大会参加費 (発表要旨集録を含む)	個人会員 5,000 円 (事前割引 4,000 円) 学生会員 3,000 円
*懇親会費	5,000 円
*弁当代 (6月7日)	1,000 円
*弁当代 (6月8日)	1,000 円

*『発表要旨集』のみ (送料込み)	2,000 円

- ・非会員の方も参加できます。「参加申込書」のコピー、郵便局備え付けの振替用紙等をご利用になり、上記と同様の手続きをしてください。
- ・当日の参加申込みも可能ですが、準備の都合上、是非とも事前手続きにご協力ください。事前割引は、**5月13日(火)**までに振込みが完了した場合に適用いたします。
- ・お払込みの大会参加費等は、理由を問わず返却いたしません。予めご協力ください。大会参加費等を払込みながらご欠席の場合は、後日、発表要旨集録をお送りいたします。
- ・大会当日の受付には、大会関係の他、学会事務局の受付を置き、入会申込み、未納会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布等を行っています。
- ・土曜日、日曜日とも大学食堂は営業していませんので、できるだけお弁当をお申し込み下さい。
- ・会場には、駐車スペースはありません。

2. 振替口座

- ・会員の方は、同封の振替用紙をご利用いただくと便利です。学会の年度会費の振替用紙とは別になっていますので、ご注意ください。

口座名: 大学教育学会第30回大会実行委員会

口座番号: 00190-8-447376

3. 自由研究発表・ラウンドテーブル発表者の方々

- ・発表に際して配布する資料等は、各自でご用意ください。
- ・各会場にプロジェクタ (windows XP 対応) は準備いたしますが、PCは各自でご用意ください。

4. 大会ポスター

- ・今回の大会については、B3版のポスターを準備いたしましたので、掲示をお願いします。近日中に、機関会員に送付いたします。

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

今年度(2008年度)の会費の請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。また、過年度の会費、会誌代が未納の方々にはその分も加算した請求書とさせていただきます(行き違いの場合は、ご容赦のうえ、事務局までご連絡ください。)ので、**5月30日(金)**までにご入金ください。領収証につきましては、郵便払込票の受領証をもって替えさせていただきます。

なお、今回は学会大会参加申込用の郵便払込取扱票も同封されていますので、お間違えのないようご注意ください。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金はなるべく同封の郵便払込取扱票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、お手数でもご入金前に必ず事務局までその旨ご連絡ください。

● 住所変更等の届出について(お願い)

4月になり、所属変更およびそれにともなう転居をされる方も多いと思います。何かとお忙しいと思いますが、事務局への登録内容変更の届出につきましても速やかにお願いをいたします。

● 学生会員でご登録のみなさまへ

ご入会の際、学生会員で入会された場合は、就職後、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。学生会員から個人会員へと登録内容を更新させていただきます。

● 入会リーフレットについて

本会設立の趣旨及び活動内容を示した「入会案内」を作成いたしました。入会申込書とセットで用意しておりますので、必要な方は随時、事務局までご連絡ください。

● 2008年度課題研究集会について

2008年度課題研究集会は12月6日(土)～7日(日)に岡山大学(岡山県岡山市)にて開催予定です。

● 販売内容のご案内

▼ ご購入希望がある場合は、その旨、事務局までお申し出ください。

No.	販売内容	価格(税込)	送料
1	学会誌バックナンバー	各3,500円	別途
2	学会誌バックナンバーCD-ROM (創刊号～第22巻第2号まで収録)	5,000円	別途

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757 北海道医療大学内
大学教育学会事務局 事務局長 小野 滋男

TEL&FAX 0133-23-1487

e-mail ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp

<http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>



【大会事務局】

〒161-8539 新宿区中落合 4-31-1
目白大学 スポーツ科学研究室
大学教育学会第 30 回大会実行委員会
TEL :03-5996-3126
FAX: 03-5996-3125
E-mail: 30kaitaikai@mejiro.ac.jp
URL: http://www.mejiro.ac.jp/event/event2008/080607_lgesj.html

【学会事務局】

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757
北海道医療大学内
TEL/FAX 0133-23-1487
E-mail ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp
URL <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>